

〈研究論文〉

# 台湾の20代が持つ対日イメージ

——肯定性の要因に着目して——

沈 圓  
松 野 良 一

## Image of Japan held by Taiwanese in their Twenties

—Focusing on positive factors—

Shen YUAN  
Ryoichi MATSUNO

### Abstract

Numerous surveys have revealed that the Taiwanese have a strong sense of affinity with Japan. However, although there are studies targeting people in their thirties and older, there are no studies targeting people in their twenties today. Therefore, this study aimed to clarify the factors that positively affect the image of Japan held by the Taiwanese in their twenties. This study consists of Study 1 and Study 2.

Study 1 clarified how four factors, that is “family environment,” “Japanese culture,” “history education,” and “image of China,” foster positive images of Japan, using correlation analysis and multiple regression analysis. The results showed that the four factors are correlated with the formation of a positive image of Japan among the subjects. Additionally, it became clear that the three factors of “family environment,” “Japanese culture,” and “image of China” have a causal relationship with the formation of a positive image of Japan.

In Study 2, we interviewed eight Taiwanese in their twenties who had a positive impression of Japan. Based on the collected data, we conducted a qualitative analysis of the factors that most strongly influenced the subjects’ positive image of Japan, and how the above four factors were related to this formation. As a result, the following facts were clarified.

First, Japanese pop culture such as anime and games had a great influence. Second, the influence of history education was weak. Third, the subjects formed a positive image of Japan under the influence of their family’s daily activities, such as watching Japanese TV programs, using Japanese products, and using the Japanese language. Fourth, the subjects in their twenties judged their favorite Japanese towns based on their own experiences of visiting Japan and created their own unique perception of Japan.

## KeyWords

family environment, Japanese culture, history education, image of China, four factors

## 目 次

1. 問題と目的
  2. 先行研究
  3. 対日イメージと4要因との相関（研究1）
  4. 対日イメージの形成と影響要因との関わり（研究2）
  5. 全体的考察および今後の課題
- 参考文献

## 1. 問題と目的

### 1.1 研究の背景

台湾人は、一般的に「親日的」として知られている。公益財団法人日本台湾交流協会が、2008年から2021年まで7回行った「台湾における対日世論調査」<sup>1)</sup>のうち、最近の6回分を示したのが図1である。これによると、日本は6回連続して「最も好きな国」となっている。特に最新の2021年度の調査では、「日本が最も好き」と回答した比率が過去最高の60%となり、中国など第2位以下を大きく引き離れた。また、同じ2021年度の調査では、「日本に親しみを感じる」という回答は77%に達している。

年齢層で見ると、20～29歳（1990年代生まれ）、

30～39歳（1980年代生まれ）、40～49歳（1970年代生まれ）の65%以上が、「日本が最も好き」と回答している。また、「日本に親しみを感じますか？」という問いでは、「親しみを感じる」「どちらか」というと親しみを感じる」と回答した割合が、20～29歳が90%、30～39歳が89%、40～49歳が81%となっている。つまり、20～29歳の日本への親近感は極めて高いことがわかる。

これまで、台湾人の親日性の研究は、30代、40代のものはあるが、最新の20代に焦点を絞った研究は、調べた限りでは見当たらなかった。このため本研究は、台湾の20代に注目し、対日イメージがなぜ肯定的なのかについて分析を試みた。

「20代」にアプローチする前に、「30代」の親日性について言及しておきたい。

台湾における現在の「30代」の肯定的対日イメージは、90年代以降に起きた「哈日ブーム」の影響を受けた結果であると複数の論文が指摘している。

「哈日ブーム」とは、「日本が大好き」な「哈日族」<sup>2)</sup>を代表に、日本の大衆文化に夢中になる現象を指す言葉である。最初「哈日」という言葉は、哈日杏子（1996）の4コマ漫画『早安！日本』（『おはようございます！日本』）の中で用いられた。哈日杏子は「哈日症状」を「いつも自分を完全に日本化された世界に浸らせていなければ辛くなる」状況であると定義している。その後、哈日という言葉

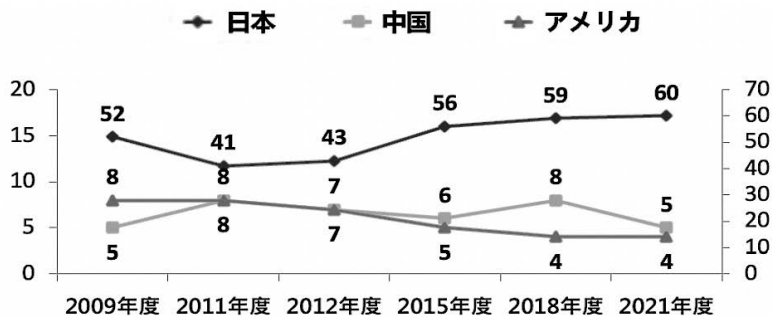


図1 台湾を除き、最も好きな国上位三か国 2009～2021年度

1) <https://www.koryu.or.jp/business/poll/>（2022年9月30日確認）

2) 「哈」は台湾語で、「好き」という意味である。「哈日族」は、日本のアニメ、ドラマなど、日本カルチャーのファンの意味として使われた。

業はインターネットやマスメディアを通して広がり、一般に用いられるようになった(李, 2017)。

張(2019)は、台湾の30代について、「哈日現象以降の若者世代が<日本>に対する親近感や愛着を共有し、<日本>をめぐる能動的に想像することで、この世代ならではの共同体が形成されてきたと捉えられよう」と述べている。この研究は、「哈日ブーム」の影響を受け育った人々、つまり現在の30代の台湾人には、日本に対する肯定的イメージを持っている人が多いことを明らかにした。

2003年のSARS危機によって日本のアイドルによる台湾公演やライブが激減した結果、メディアへの露出が減少して「哈日ブーム」が沈静化した。しかしながら、日本台湾交流協会の調査によれば、「哈日ブーム」が沈静化した後に育った「20代」は、依然として日本に対する高い好意を持っている。これは何故だろうか。

守谷ら(2011)は、次のように述べている。「これまでの研究結果から、台湾の若者が抱く日本イメージの形成には家庭環境および日本大衆文化が形成要因として重要な役割を担っていることが共通して示される」(p.114)。このように、「家庭環境」と「日本大衆文化」は台湾人の日本に対する肯定的イメージの形成に関して重要な要因であると述べている。

さらに、守谷ら(2011)は「また、ある社会における日本イメージの背景要因を検討する際、歴史教育の影響についても考慮する必要がある。」(p.115)と述べている。このように、「歴史教育」も一つ重要な要因である<sup>3)</sup>。

また、台湾の若者の日本に対する肯定的イメージの形成に関して、「対中イメージ」も一つの重要な影響要因であると考えられる。張(2018)は、日台関係と国家政策のマクロ次元において、台・中・米・日の四角関係の中で、日本との友好関係を維持することは、経済、外交、国防の側面における

台湾の存在を確立するため重要とされていると述べている。このように、台湾人は「台湾アイデンティティ」を強調するために、<日本>を媒介として中国への対抗意識を表すと考えられる。そのうえ、台湾は中国との緊張感が高まった時、中国を牽制するために日本との関係性は緊密となると考えられる。したがって、「対中イメージ」も台湾人の対日イメージの影響を与える要因として重要な課題であると考えられる。

以上の先行研究レビューから、「家庭環境」「日本大衆文化」「歴史教育」「対中イメージ」が、日本に対するイメージ形成において、重要な要因であると考えられる。

## 1.2 研究目的

本研究全体の目的は、台湾における20代がもつ対日イメージの肯定性の要因を明らかにすることである。本研究は、研究1と研究2で構成されている。

研究1の目的は、量的解析方法を用いて、台湾における20代の肯定的対日イメージ形成において、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「対中イメージ」の4要因がどのように影響を与えているのかについて明らかにすることである。

研究2の目的は、質的解析方法を用いて、台湾における20代の肯定的対日イメージ形成において、最も影響を与えている要因、および4要因がどのように影響を与えているのかについて明らかにすることである。

## 1.3 本研究の独自性

従来の台湾人の対日イメージに関する研究は、「哈日」ブームの影響を受けた現在の30代に関する研究と国民党統治時代の影響を受けた現在の40～80代に関する研究が多い。しかし、台湾における現在の20代の若者に焦点を当てた研究は、調べたところ見当たらなかった。そこで本研究の独自性は、台湾における現在の20代の若者を調査対象として、研究を行った点にある。

3) 歴史教育といっても、日本統治時代、中国国民党統治時代、民主化時代のそれぞれにおいて、その内容は異なる。このため、歴史教育の内容、日本に対する視点などが異なることに留意すべきであると考えられる。

## 2. 先行研究

台湾人の対日イメージに関する先行研究は、年代別に分けて議論する研究が多い。台湾人の対日イメージに影響を与える要因に関する先行研究は、主に3つの年齢層に分けられる。1つ目は現在の80代以上の年齢層であり、2つ目は現在の40～70代であり、3つ目は現在の30代である。以下に、このような3つの年齢層に分け、先行研究を検討していく。

### 2.1 80代以上の対日イメージの形成について

台湾における現在の80代以上の対日イメージの形成について、個人経験に関する研究が多い。洪(2013)は、現在80代以上の台湾人が日本植民地時代の「良いところ」を懐かしむので、肯定的な対日イメージを形成したと述べている。松下(2008)は、日本統治時代を生きて、日本の教育を受け、日本人と生活をした「多桑世代」である台湾の高齢者は、中国国民党政治への反発と共に、親日的イメージを形成したと述べている。

### 2.2 40～80代の対日イメージの形成について

台湾における現在の40～80代の対日イメージの形成について、歴史教育と対中イメージに関する研究が多い。歴史教育について、張(2002)、松下(2008)、加賀美ら(2016)は日本統治時代以後に生まれ育った世代は、反日教育の影響を受け、日本に対して否定的な感情を持つ「反日世代」となっていたと述べている。しかし、このように反日教育が徹底されたにもかかわらず、日本大衆文化は依然としてアンダーグラウンドで発展し、台湾人が日本に対して好意を持つ要因であった(李, 2017)。

対中イメージについて、当時の台湾人は国民党政府にして不満を抱いており、「犬が去って、豚が来た」と国民党を揶揄した。そして、1947年二二八事件から1987年に戒厳令が解除されるまで、台湾の人々は長い間に、白色テロの恐怖に怯えながらの生活を余儀なくされてきた(松野, 2016)。王

は、当時の台湾人が抱く対日イメージについて、「当てこすり」論を論じた。王は、台湾人が抱く対日イメージは、蒋介石と蔣経国親子や中国国民党に対する「当てこすり」であるとし、決して純粋な肯定的感情ではなく、蔣親子や中国国民党に対する否定的見方であると述べている(王, 1988)。

### 2.3 30代の対日イメージの形成について

そして、台湾における現在の30代に関して、「家庭環境」「大衆文化」「歴史教育」「対中イメージ」という4要因に関連する研究が蓄積されている。

その中で、数が最も多いのは、李(2006)、松下(2008)、守谷ら(2011)のような、カルチュラル・スタディーズやメディア論の視点から日本の大衆文化に注目するものである。李(2006)は「哈日現象」を起こした「日本の大衆文化」の代表として日本の恋愛ドラマを分析対象とした。李は台湾での放送直後ブームを引き起こした2本のドラマ『東京ラブストーリー』と『ビューティフルライフ』の分析を通じて、日本の恋愛ドラマの演出が台湾人の対日イメージに影響を与えたことを述べている。李は、日本の恋愛ドラマに描かれた「日本」を「現実の日本」だと信じる傾向があり、台湾の視聴者に一種の理想的なイメージが形成されていたと論じている。李(2006)は、日本の恋愛ドラマを代表とする「日本の大衆文化」が、台湾の人々の肯定的対日イメージの構築に対して、広告の機能を果たしたのではないかと考えた。さらに、守谷ら(2011)は、日本の大衆文化が、対象者本人と友人・家族等の身近な人々との関係性の中で共有され、それが日本イメージ形成に関与してきたと論じた。

家庭環境と日本イメージ形成との関連については、以下のようなものがある。守谷ら(2011)は、家族の成員の日本に対する態度が、対象者自身の日本イメージ形成に密接に関わる可能性があると述べている。つまり、家庭環境において形成された家庭共通の日本イメージが、次の世代へと継承されていく可能性があると指摘している。

歴史教育と日本イメージ形成との関連について

は、以下のようなものがある。守谷ら（2011）は「対象者（30代）は歴史教育を通して得た知識を自己の日本イメージ形成に直結させるのではなく、家族や友人等との間で共有される日本への見方や自身の直接的な体験に基づき日本イメージを形成している様子が明らかとなった」と述べている。歴史教育を通じて日本イメージを形成しない原因に関して、守谷らは「台湾人」としてのアイデンティティの形成と1987年の戒厳令解除後に行った教育の「本土化」に関わると述べている。

国際関係と日本イメージ形成との関連については、張（2018）は30代の台湾人が台湾アイデンティティを維持するため、＜日本＞を重要な他者として位置づけていると分析している。

### 3. 対日イメージと4要因との相関（研究1）

#### 3.1 研究1の目的

研究1の目的は、現在の台湾における20代の若者について、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「国際関係」という4要因と肯定的対日イメージの形成との相関関係を明らかにすることである。

#### 3.2 研究1の方法と手続き

台湾における20代を調査対象として、Webを介したアンケート調査を実施した。収集したデータは、SPSSを利用し、統計的手法を用いて相関性分析と重回帰分析を行った。

2021年5月11日から5月23日にかけ、台湾銘伝大学新聞伝播研究科<sup>4)</sup>に所属する学生を対象として、Webを介してアンケート調査を行った。第1問「年齢はおいくつですか」で20～29歳以外の年齢を記入した回答と、第2問「小さいころから台湾に住んでいますか」で「いいえ」と回答した質問紙を無効回答とし、最終的な有効回答数は328であった。有効回答率は92.1%である。

アンケートの質問紙作成に当たり、先行研究を参考に検討を行い、質問項目を設定した。質問項

目は、基本情報、対日イメージ、家庭環境、日本文化、歴史教育、対中イメージ、計6カテゴリから構成した。

対日イメージについては、櫻坂・内藤・張（2010）を参考に団結・強さ・安定を示す「凝集性」、先進的・豊かさを示す「先進性」、日本に対する親しみを示す「親和性」の3因子を質問項目として作成し、5段階評定を求めた。家庭環境、日本文化、歴史教育については、守谷ら（2011）のインタビュー調査を参考に各要因に対して3項目を作成し、5段階評定を求めた。対中イメージについては、楊・劉（2011）の台湾人の対中イメージを測定する3項目を参考に5段階評定の質問項目を作成した。

質問紙の内容は筆者により日本語バージョンから中国語バージョンに翻訳して配布した。アンケートの日本語バージョンは表1の通り、中国語バージョンは表2の通りである。

#### 3.3 結果と考察

質問紙を用いて得られたデータをSPSSに入力した後、まず全体的な傾向を把握できるように、項目分析、信頼性分析および妥当性分析を実施した。また、台湾の20代の対日イメージに影響を与える4要因の影響について検討するために、相関分析と重回帰分析を実施した。

##### 3.3.1 項目分析

まず、調査結果の全体的傾向を把握するために、収集したアンケートデータに対して記述統計を行った。各質問項目の平均値、中央値、最小値、最大値、標準偏差、超過尖度及び歪度について、表3に示した。

「対日イメージ」の平均値の範囲は3.524から3.768までである。「家庭環境」の平均値の範囲は3.113から3.235までである。「日本文化」の平均値の範囲は3.363から3.491までである。「歴史教育」の平均値の範囲は3.277から3.387までである。「対中イメージ」の平均値の範囲は3.393から3.473までである。したがって、回答者のほとんど

4) 筆者は、大学3年時（2016年）に同大学に留学した経験がある。



表1 アンケートの日本語バージョン

説明	質問項目	選択肢
基本属性	1. 年齢はおいくつですか.	
	2. 小さいころから台湾に住んでいますか.	はい・いいえ
	3. 日本に旅行した経験がありますか.	はい・いいえ
	4. 日本で半年以上の留学や仕事をした経験がありますか.	はい・いいえ
対日イメージ	5. 日本に対して肯定的態度を持っています.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	6. 日本は「先進性」がある国だと思います.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	7. 日本は「凝集力」がある国だと思います.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	8. 日本は「親和性」がある国だと思います.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
家庭環境	9. 家族は日本に対して肯定的態度を持っています.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	10. 家にはたくさんの日本製品があります.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	11. 両親はよく日本を賞賛します.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
日本文化	12. 日本のポップカルチャーが好きです. (アニメ / マンガ / ゲーム / ドラマ / 映画 / アイドルなど)	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	13. 日本の伝統文化が好きです. (着物 / 歌舞伎 / 華道 / 茶道 / 武士など)	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	14. 日本文化に積極的に接触します.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
歴史教育	15. 日本と台湾の歴史に関心があります.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	16. 日本と台湾の歴史について友達とよく話します.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	17. 日本と台湾の歴史は、対日イメージに影響を与えました.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
対中イメージ	18. 中国大陆の製品に良いイメージを持っています.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	19. 中国大陆からの観光客の質は高いと思います.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
	20. 中国大陆の人々の日常生活にあこがれています.	強くそう思う・そう思う・どちらでもない・そう思わない・全くそう思わない
その他	21. もし次の段階でインタビュー調査に協力できる場合は、以下のメールアドレスに記入して送ってください. どうもありがとうございました!	

表2 アンケートの中国語バージョン

説明	問題	選項
個人情報	1. 請問您的年齡是？	
	2. 您從小居住在台灣嗎？	是 / 否
個人經歷	3. 您曾去過日本旅遊嗎？	是 / 否
	4. 您曾有過半年以上在日本留學或者工作的經驗嗎？	是 / 否
對日本的印象	5. 您對日本持肯定態度.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	6. 您認為日本是一個先進的國家.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	7. 您認為日本是一個有“凝聚力”的國家.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	8. 您認為日本是一個有“親和性”的國家.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
家庭環境	9. 您的家人對日本持肯定的態度.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	10. 您家裡有許多日本的產品.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	11. 您的父母經常誇讚日本.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
日本文化	12. 您喜歡日本的流行文化. (動畫 / 漫畫 / 遊戲 / 電視劇 / 電影 / 偶像等)	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	13. 您喜歡日本的傳統文化. (和服 / 歌舞伎 / 花道 / 茶道 / 武士等)	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	14. 您積極地接觸日本文化.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
歷史教育	15. 您關心日本與台灣的歷史.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	16. 您經常和你的朋友談論有關日本與台灣的歷史.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	17. 日本與台灣的歷史影響了你對日本的想法.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
對中印象	18. 您對中國大陸的產品印象不錯.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	19. 您認為中國大陸遊客的素質高.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
	20. 您嚮往中國大陸人民的日常生活.	非常不同意 / 不同意 / 中立 / 同意 / 非常同意
其他	21. 如果您願意協助參與下一階段的採訪調查的話, 請在下方留下您的電子郵箱. 非常感謝！	

表3 アンケート結果の項目分析

	平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差	超過尖度	歪度
家庭環境 1	3.195	4	1	5	1.392	-1.276	-0.230
家庭環境 2	3.113	3	1	5	1.272	-1.149	-0.168
家庭環境 3	3.235	3	1	5	1.315	-1.196	-0.125
日本文化 1	3.363	4	1	5	1.215	-0.884	-0.395
日本文化 2	3.491	4	1	5	1.247	-0.665	-0.586
日本文化 3	3.451	4	1	5	1.263	-0.702	-0.551
歴史教育 1	3.387	4	1	5	1.212	-0.906	-0.436
歴史教育 2	3.360	4	1	5	1.219	-1.032	-0.290
歴史教育 3	3.277	4	1	5	1.343	-1.148	-0.304
対中イメージ 1	3.393	4	1	5	1.250	-0.852	-0.457
対中イメージ 2	3.457	4	1	5	1.241	-1.134	-0.286
対中イメージ 3	3.473	4	1	5	1.381	-1.060	-0.508
対日イメージ 1	3.768	4	1	5	1.091	0.332	-0.987
対日イメージ 2	3.677	4	1	5	1.234	-0.474	-0.734
対日イメージ 3	3.524	4	1	5	1.278	-0.577	-0.702
対日イメージ 4	3.549	4	1	5	1.270	-0.671	-0.621

は公正であり、極端な答えは存在しなかった。

また、各要因の質問項目の標準偏差は、1より大きく2未満である。更に、各質問項目の超過尖度と歪度は $\pm 2$ 以内であり、基本的に正規分布に従っていると考えられる。つまり、本研究のアンケートのデータについては、天井効果や床効果は特に見られなかったため、統計的解析に使用してもよいと判断した。

### 3.3.2 信頼性分析と妥当性分析

本研究では、質問項目の信頼性を確認するために、Cronbachの $\alpha$ 係数を用いた。16質問項目それぞれの内の一貫性を検討するために $\alpha$ 係数を算出した結果は、表4に示した。「対中イメージ」の $\alpha$ 係数は0.893であり、「家庭環境」の $\alpha$ 係数は0.890であり、「歴史教育」の $\alpha$ 係数は0.893であり、「対日イメージ」の $\alpha$ 係数は0.928であり、「日本文化」の $\alpha$ 係数は0.886であった。各々の因子の $\alpha$ 係数が0.7より大きいと、各質問項目の一貫性が認められた。これらの結果から、本研究アンケートの内的一貫性は十分にあることが示された。

各質問項目の関係が、理論から予測される構造と一致するかどうかという観点からアンケートの妥当性を検討するために、因子分析（主因子法、バリマックス回転）を実施した。その結果、表4のように4つの因子が抽出された。第1因子に対しては、Q18～Q20が高い因子負荷を示したため、「対中イメージ」と解釈できる。第2因子に対しては、Q9～Q11が高い因子負荷を示したため、「家庭環境」と解釈できる。第3因子に対しては、Q15～Q17が高い因子負荷を示したため、「歴史教育」と解釈できる。第4因子に対しては、Q5～Q8が高い因子負荷を示したため、「対日イメージ」と解釈できる。第5因子に対しては、Q12～Q14が高い因子負荷を示したため、「日本文化」と解釈できる。これらの結果から、本研究アンケートに設定した要因を構成する各質問項目間の内的一貫性および異なる要因間の独立性は十分にあることが示された。

### 3.3.3 相関分析

相関分析は量的な2変数間の関係を分析し、ピ



表4 因子分析の結果および信頼性係数

項目	因子					α係数
	対中 イメージ	家庭環境	歴史教育	対日 イメージ	日本文化	
Q18. 中国大陸の経済発展に肯定的な態度を持っています.	<b>.862</b>	.205	.167	.059	.211	α=.893
Q19. 中国大陸の政治制度に肯定的な態度を持っています.	<b>.883</b>	.206	.178	.090	.204	
Q20. 中国大陸の文化発展に肯定的な態度を持っています.	<b>.951</b>	.297	.254	.163	.272	
Q 9. 家族は日本に対する肯定的態度を持っています.	.227	<b>.921</b>	.356	.621	.501	α=.890
Q10. 家にはたくさんの日本製品があります	.264	<b>.907</b>	.387	.598	.498	
Q11. 両親はよく日本を賞賛します	.264	<b>.889</b>	.295	.562	.474	
Q15. 日本と台湾の歴史に関心があります.	.195	.341	<b>.914</b>	.348	.372	α=.893
Q16. 日本と台湾の歴史について友達とよく話します	.191	.352	<b>.909</b>	.356	.371	
Q17. 日本と台湾の歴史は、対日イメージに影響を与えました.	.260	.350	<b>.899</b>	.316	.356	
Q 5. 日本に対する肯定的態度を持っています.	-.014	.631	.293	<b>.894</b>	.560	α=.928
Q 6. 日本は「先進性」がある国だと思います.	.131	.553	.343	<b>.918</b>	.579	
Q 7. 日本は「凝集力」がある国だと思います.	.179	.587	.360	<b>.910</b>	.566	
Q 8. 日本は「親和性」がある国だと思います.	.198	.606	.370	<b>.904</b>	.545	
Q12. 日本のポップカルチャーが好きです. (アニメ / マンガ / ゲーム / ドラマ / 映画 / アイドルなど)	.250	.479	.360	.558	<b>.903</b>	α=.886
Q13. 日本の伝統文化が好きです. (着物 / 歌舞伎 / 華道 / 茶道 / 武士など)	.248	.507	.369	.574	<b>.907</b>	
Q14. 日本文化を積極的に接触します.	.214	.482	.366	.548	<b>.898</b>	

アスンの相関係数などを計算する際に用いる分析方法である。また、説明変数と被説明変数との区別がある因果分析の予備のために用いることができる。

SPSSを利用して、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「対中イメージ」および「対日イメージ」について相関分析を行った。その結果の記述統計を表5に示した。「対日イメージ」との相関に着目すると、「家庭環境」は0.653とやや強い相関関係、「日本文化」は0.620とやや強い相関関係、「歴史教育」は0.377とやや弱い相関関係、「対中イメー

ジ」は0.125と弱い相関関係であった。これにより、各変数と「対日イメージ」の間には、有意な相関関係あると認められる。したがって、次の回帰分析に適していると考えられる。

### 3.3.4 重回帰分析

以上のことから、台湾20代の対日イメージの形成には多くの要因が関連していることが理解された。しかし、そのなかにもどのような要因がもっとも強く関連しているのかはまだ確認できない。したがって、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「対

表5 家庭環境, 日本文化, 歴史教育, 対中イメージ, および対日イメージの相関行列

	平均値	標準偏差	家庭環境	日本文化	歴史教育	対中イメージ	対日イメージ
家庭環境	3.1809	1.20332	1	.542**	.382**	.262**	.653**
日本文化	3.435	1.1224	.542**	1	.404**	.254**	.620**
歴史教育	3.3415	1.14343	.382**	.404**	1	.226**	.377**
対中イメージ	3.4411	1.17277	.262**	.254**	.226**	1	.125*
対日イメージ	3.6296	1.1072	.653**	.620**	.377**	.125*	1

\*\* 相関係数は1%水準で有意 (両側).

\* 相関係数は5%水準で有意 (両側).

中イメージ」の4要因が, 全体的に「対日イメージ」にどれくらい影響を与えているのかを検討するために, 重回帰分析を行った. 「対日イメージ」を目的変数とし, 4要因を説明変数として重回帰分析を行った. その結果を, 表6, 表7, 表8に示す.

まず, 「家庭環境」と「対日イメージ」との標準化回帰係数ベータ値は0.45であり, 有意確率は0.000 ( $p < 0.001$ ) である. したがって, 「家庭環境」が「対日イメージ」に対して有意な正の影響を及

ぼしていることを示している. すなわち, 日本に対する高い好意を持つ家庭環境に生まれ育った人ほど日本に対する良いイメージを抱きやすいことを意味している. つまり, 20代の台湾若者の肯定的対日イメージに影響を与える4要因の中で, 「家庭環境」が最も顕著な要因であることが明らかになった.

また, 「日本文化」と「対日イメージ」との標準化回帰係数ベータ値は0.37であり, 有意確率は

表6 重回帰分析のモデルの要約

モデル	R	R <sup>2</sup> 乗	調整済み R <sup>2</sup> 乗	推定値の標準誤差
1	.735 <sup>a</sup>	.540	.534	.75550

a. 予測値: (定数), 家庭環境, 日本文化, 歴史教育, 対中イメージ.

表7 重回帰分析の分散分析

モデル	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1 回帰	216.508	4	54.127	94.830	.000 <sup>b</sup>
残差	184.361	323	.571		
合計	400.868	327			

a. 従属変数: 対日イメージ

b. 予測値: (定数), 家庭環境, 日本文化, 歴史教育, 対中イメージ.

表8 重回帰分析の係数

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	1.142	0.177		6.436	0.000
家庭環境	0.414	0.043	0.450	9.714	0.000
日本文化	0.365	0.046	0.370	7.936	0.000
歴史教育	0.076	0.041	0.079	1.859	0.064
対中イメージ	-0.099	0.038	-0.105	-2.633	0.009

a. 従属変数: 対日イメージ

0.000 ( $p<0.001$ )である。したがって、「日本文化」が「対日イメージ」に対して有意な正の影響を及ぼしていることを示している。すなわち、日本文化に対して興味を持っている人ほど日本に対する良いイメージを抱きやすいことを意味している。

そして、「歴史教育」と「対日イメージ」との標準化回帰係数ベータ値は0.079であり、有意確率は0.064 ( $p>0.05$ )である。したがって、「歴史教育」が「対日イメージ」に対して有意な正の影響を及ぼしていることを認められない。すなわち、台湾20代の若者が、受けた日本に関する歴史教育によって、自分自身の対日イメージを変えていないことを意味している。

最後に、「対中イメージ」と「対日イメージ」との標準化回帰係数ベータ値は-0.105であり、有意確率は0.009 ( $p<0.01$ )である。したがって、「対中イメージ」が「対日イメージ」に対して有意な負の影響を及ぼすことを示している。すなわち、中国大陆に対する悪いイメージを持つ人ほど日本に対する良いイメージを抱きやすいことを意味している。

以上のように、「対日イメージ」を目的変数として、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「対中イメージ」を説明変数として重回帰分析を行った。全体的なモデルの結果が表6に示すように、調整済みR2乗は0.534であり、F値は94.830であり、有意確率は0.000 ( $P<0.001$ )である。すなわち、本研究の研究1の重回帰分析モデルは1%水準で有意である。

#### 4. 対日イメージの形成と影響要因との関わり (研究2)

##### 4.1 研究2の目的

研究1では、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「対中イメージ」という4要因と台湾20代の肯定的対日イメージとの相関関係を量的に分析した。続いて、研究2では、台湾20代の肯定的対日イメージに対して、質的な検討を行う。研究2の目的は、台湾20代の肯定的対日イメージに最も影響を与えている要因は何か。そして、上述の4要

因が台湾若者の日本に対する肯定的イメージ形成にどのようにかかわっているのかを明らかにすることである。

##### 4.2 研究2の方法と手続き

研究2では、日本に対する良いイメージを抱いている20代の台湾人8人を対象として、半構造化インタビューを実施した。

半構造化インタビューについて、福島(2016)は「インタビューアーや分析者が、あらかじめインタビューガイドという形で、質問内容をおおまかに決めておくが、実際には対象者の考え方によって柔軟に質問の仕方を変えていく」方法であると記述している。福島の見解を基に、広い見地での発言を期待することから、本研究では半構造化インタビューの手法を採用することとする。

インタビューの協力者は、研究1のアンケートの回答者である。具体的には、研究1のアンケートの第21問にメールアドレスを記入した回答者に対し、「対日イメージ」項目の得点が高い順により、インタビュー協力依頼メールを配信した。最後に、その中の8人に対してインタビューを実施した。

インタビューの質問項目について、守谷ら(2011)を参考に質問項目を作成した。まず、最初の質問項目については、「あなたはどのように日本が好きですか」とした。この質問項目の目的は、回答者たちの肯定的対日イメージに最も影響を与える主観的な要因、あるいは仮説の4要因以外の理由があれば聞き取ることである。次に、日本への関心について、より詳細な質問を行った。最後に、研究1で言及した4要因について、回答者が一番目の質問項目で言及しなかった要因を聞き取ることにした。

インタビューは、Google Meetを利用し、2021年10月7日から10月16日まで10日間にわたり、8人を個別で実施した。インタビュー実施前に、調査目的および守秘義務に関する説明を行い、同意を得た。一人あたりのインタビュー実施時間は40分から1時間程度で、リラックスした雰囲気で行っ

た。インタビュー内容はすべてスマホで録音した。インタビュー後、文字起こしの際に音声データの文字化け等の修正を行い、音声のテキスト化を行った。テキストデータの総字数は25510字である。

そのデータをもとに、インタビュー内容分析を行った。分析方法は、KH Coderを用いたテキストマイニングを実施し共起ネットワークによる図式化を試みた。

福島編 (2016) はテキストマイニングについて、「自由記述やインタビューの記録、新聞記事などの文章を、コンピュータを用いて言葉を抽出し、統計的に分析していく手法」と説明している。このような分析法を樋口 (2014) は「計量テキスト分析」と呼び、定義について「計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析 (content analysis) を行う手法」と述べている。こうした見解を基に、質的分析法を数的に処理すべく、樋口が考察したフリーソフトウェアがKH Coderである。越中ら (2015) は「KH Coderは、語の選択にあたり恣意的となり得る「手作業」を廃し」と述べている。ゆえに、テキストマイニングを行う際にKH Coderを利用することが客観性を重視するために有効な手段であると考えられる。そこで、質的分析にありがちな恣意的分析を避けるべく、本研究ではKH Coderを手法として採用することとした。

実際の方法としては、インタビューで得られた文字データをKH Coderを利用して抽出し、共起回数および単語の出現頻度をまとめる。次に、共起の程度が強い語を線で結んで共起ネットワークを作成した。共起ネットワークでは、単語と単語の共起関係が強いものは線が太く、単語そのものが多く出現するものは円が大きくなる。さらに、共起関係が強い部分ごとに自動的にグループ分けおよび色分けにすることが特徴である。本研究では、グループの色分けは「サブグラフ検出 (媒介)」モードを用いた。これにより、共起関係が強い言葉は線で結ばれ、共起関係が弱い言葉は破線で結ばれるため、関係性が見えやすいと考えられる。

### 4.3 結果と考察

#### 4.3.1 「日本が好きな理由」について

1 番目の質問項目「あなたはどのようにして日本が好きですか」に対する回答のキーワードは表9に示した。以下に、台湾20代の若者の肯定的対日イメージに対する最も強い影響要因を探索する。

表9 各回答者「日本が好きな理由」のキーワード

対象者	年齢	日本が好きな理由
A	29	留学, 旅行, 大阪, 親切なおばさん
B	22	大学の日本人留学, 友達, 大阪, 面白い
C	24	アニメ, 漫画, 『ONE PIECE』, 地震の支援
D	23	アニメ, 『鋼の錬金術師』, バンド (ラルク), ライブ
E	25	アニメ, 秩序, マナー, 旅行, 佐賀, 伝統文化
F	29	アニメ, お爺さんお祖母さん, 日本語勉強, 旅行
G	23	アニメ, ゲーム, 陶磁器, 美意識, 色彩感覚
H	28	アニメ, ガンダム, 日本語勉強, 民族性, 職人, 建築物

「日本が好きな理由」について、最も顕著な特徴は「アニメ」と言及した人が多いという点である。8人の中で、6人 (対象者C, D, E, F, G, H) が「小さい頃」からテレビで日本の「アニメ」を視聴した影響により日本が好きになったと言及した。

次に、「小さい頃からのアニメ視聴」という共通の特徴以外に、日本にまつわる様々な興味に関する話題をインタビューから聞き取った。「日本人の友達」の成長環境や「バンド」「陶磁器」など、日本が好きな理由は様々であることがわかった。したがって、より論理的にインタビュー内容を把握するために、次にKH Coderを利用してテキストマイニング分析を行った。

#### 4.3.2 単語の出現頻度

本研究ではKH Coderを利用し、テキストマイニングを行う。そのデータを基に、インタビュー内容の頻出語を分析し、その上で、語と語の間の

共起ネットワークを考察した。

まず、頻出語の分析結果である。

インタビューで多く使用された語彙を明らかにするために、文字化したインタビューの内容をKH Coderに投入し、抽出語リストを作成した。頻出語の内の上位30語とその出現頻度は表10の通りである。

表11に品詞別の上位5語を示している。

名詞について、出現回数が他の品詞と比較して、非常に多かった。上位100語の中で名詞数は76である。

そこで、表12にインタビュー内容をより詳細に把握するために、名詞のみを抽出し、出現回数が10回以上の名詞について抽出語リストを作成した。

まず、表10が示すように、一番出現頻度が高い語は「日本」であり、インタビューの中に361回あらわれた。その次に出現した語は「好き」148回、「行く」134回、「思う」119回、「台湾」109回である。全体的に見ると、日本や肯定的な感情に関連する語がインタビューの中に頻繁に現れる

傾向があった。

次に、表11の品詞別に見ていくと、動詞は「行く」134回、「思う」119回、「見る」92回、「接触する」23回、「遊ぶ」21回であった。「日本に行く」「アニメやゲームなどの文化製品との接触」に関する語が多かった。

形容詞は「好き」148回、「良い」48回、「多い」28回、「悪くない」12回、「安い」10回であったことから、否定の意味で用いる語が現れず、全体的に日本に対して肯定的なイメージを抱いている傾向が窺える。

名詞は「日本」361回、「台湾」109回、「人」79回、「日本人」65回、「文化」64回で、日本と台湾との繋がりや、日本人と日本文化に関する語がインタビューの中で多く言及されたことがわかった。

最後に、表12の10回以上出現した名詞を見ると、「文化」64回、「アニメ&漫画」54回、「アニメーション」47回、「ゲーム」30回、「作品」27回、「バンド」21回、「漫画」17回、「番組」10回で、日本のポップカルチャーに関する語の出現数

表10 インタビューにおける頻出語

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	日本	361	11	アニメ&漫画	54	21	多い	28
2	好き	148	12	良い	48	22	子供頃	28
3	行く	134	13	アニメ	47	23	作品	27
4	思う	119	14	歴史	46	24	大阪	24
5	台湾	109	15	旅行	42	25	影響	23
6	見る	92	16	日本語	40	26	接触する	23
7	人	79	17	中国	37	27	製品	22
8	日本人	65	18	イメージ	30	28	バンド	21
9	文化	64	19	ゲーム	30	29	国家	21
10	大陸	55	20	物	28	30	遊ぶ	21

表11 品詞別抽出語リスト（上位5語）

名詞	出現回数	動詞	出現回数	形容詞	出現回数
日本	361	行く	134	好き	148
台湾	109	思う	119	良い	48
人	79	見る	92	多い	28
日本人	65	接触する	23	悪くない	12
文化	64	遊ぶ	21	安い	10



表 12 名詞抽出語リスト（出現回数 10 回以上）

名詞	出現回数	名詞	出現回数	名詞	出現回数
日本	361	大阪	24	学校	13
台湾	109	影響	23	家族	13
人	79	製品	22	コロナ	13
日本人	65	バンド	21	興味	12
文化	64	国家	21	心を引く	12
大陸	55	態度	20	大学	12
アニメ&漫画	54	関係	19	お祖母さん	12
アニメーション	47	教育	18	お母さん	12
歴史	46	台湾人	17	お父さん	12
旅行	42	漫画	17	東京	11
日本語	40	スタイル	17	個人	11
中国	37	友達	15	体験	11
イメージ	30	環境	15	勉強	11
ゲーム	30	留学	15	植民	11
物	28	建築	14	原因	10
子供頃	28	時期	14	日本語	10
作品	27	お爺さん	14	番組	10

が特に多かった。これにより、回答者の日本のポップカルチャーに対する関心の高さが窺える結果となった。

#### 4.3.3 全体的な共起ネットワーク

次に、8人全員のインタビューにおける語の間の全体的な共起ネットワークに関して分析した。

本節では、KH Coderの「共起ネットワーク」の機能を利用し、語と語の間の共起関係を明らかにする。インタビュー内容の中で、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークは図2のとおりである。①から⑥にはサブグラフ毎に分けて論じる。

①図2の左側の01サブグラフは「日本」を中心とした共起ネットワークである。01サブグラフを見ると、「日本」「好き」「文化」「思う」「良い」「アニメ&漫画」「ゲーム」等の語が共起の程度が強いということがわかる。このことから、台湾における20代の若者の肯定的対日イメージとアニメや漫画などの日本文化の間には強いつながりがあると考えられる。

且つ、「旅行」「行く」と「台湾」の3つの語は「日本」との関連性が強いことと示されているが、「好き」とつながっていない。このことから、台湾や旅行経験と日本の間には強いつながりがあるが、肯定的対日イメージと台湾や旅行経験の間にはつながりがないことがわかる。つまり、台湾および旅行経験は、肯定的対日イメージを直接促進するものではないが、対日イメージの構成の一部であることが考えられる。

②01サブグラフと共起を持つ07サブグラフを検討する。01サブグラフの「好き」「文化」という2語とつながっているのは、「子供頃」「アニメ」「見る」「接触」「開始」の5語が挙げられる。つまり、対象者の肯定的イメージや日本文化に対する興味は幼少期に日本アニメを視聴する経験と関係あると考えられる。更に、インタビューの8人の中で、6人（対象者C, D, E, F, G, H）は幼少期に日本アニメを視聴することが日本を好きになった契機であることを言及した。このことから、日本アニメの視聴は台湾20代の肯定的イメージの形

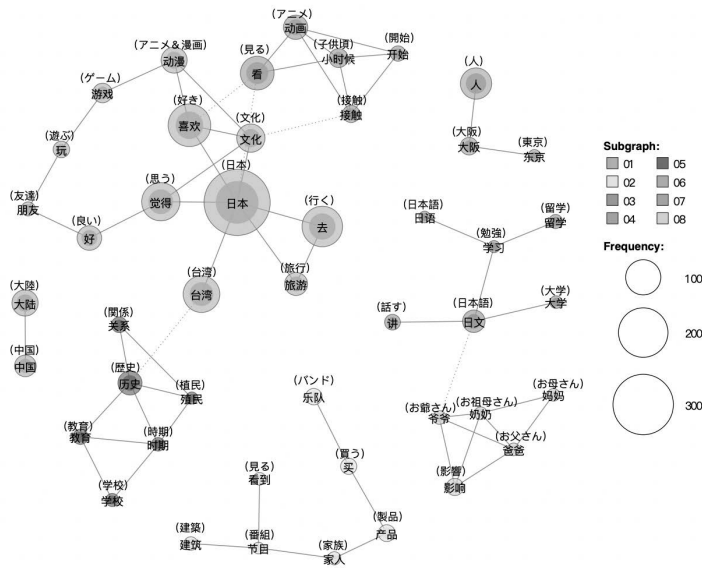


図2 全体的な共起ネットワーク

成について最も重要な要因の一つであると考えられる。

そして、インタビューの中で、Dは幼少期に日本のアニメに夢中になったことで、成長して日本に留学することを決心したと語り、日本文化が与えた影響の強さに言及した。

D：私が日本が好きなのは、ほとんどの人と同じだと思います。それは小さい頃にテレビで日本のアニメを見始めたことです。小さい頃から、ずっと『鋼の錬金術師』というアニメが大好きです。エキサイティングなプロットに加えて、『鋼の錬金術師』の曲もとても素敵です。主題歌の歌手は、今とても好きなバンド「ラルク」です。彼らのコンサートに参加してグッズを買うために、私はよく日本に行きました。そして来年は日本に留学する予定です。

また、対象者Gは、幼少期から日本のアニメを視聴し、日本の美意識に慣れていたことについて述べた。

G：台湾のテレビで日本のアニメがたくさんあっ

たので、私は小さい頃から自然にたくさんの日本アニメを見ました。徐々に日本の文化や美意識などに対する良いイメージを持ち始めた。たとえば、私は今欧米の多くのアニメやゲームでの女性キャラクターのデザインに慣れていません。欧米のアニメやゲーム会社は、多分フェミニストに配慮するため、キャラクターを「見た目が綺麗すぎる」ようにデザインすることを避けるかもしれません。しかし、私はやはり日本の作品の女性キャラクターの美しいデザインが好きです。

対象者Dと対象者Gの回答から、幼少期からの日本アニメを視聴する経験が、彼／彼女らの日本に対する良いイメージの形成の契機であることが明らかになった。そして、幼少期から日本のアニメを視聴することは、彼／彼女らが成長したときに留学などの行動や美意識などに影響を与えると考えられる。このことから、幼少期から日本のアニメを視聴する経験は、20代台湾人の対日イメージ形成の大きな契機であり、日本文化への理解に影響を与え、後に日本文化を好きになるための基礎を築くことが考えられる。

③01 サブグラフと共起を持つ05 サブグラフを検討する。05 サブグラフを見ると、「台湾」と「歴史」の間の共起が弱いことがわかる。「歴史」「植民」「関係」「時期」「教育」「学校」の語群から、学校教育での日本に関する歴史教育について語られた部分である。「歴史」は「台湾」との間に共起関係が弱く、「日本」との間に共起関係がないことがわかる。このことから、「歴史」と「台湾」「日本」とのつながりが強くないと考えられる。つまり、20代の台湾人の対日イメージは、日本植民地時代や国民党統治時代の歴史に強く影響されていないと考えられる。

対象者Cと対象者Hは日本植民地時代の歴史対し、次のように述べた。

C：その時期、日本の台湾植民地化政策は不適切なところがあるかもしれないことは知っていますが、日本に対するイメージはそれほど落ちません。私は過去に起こったことを現在の日本人や日本には当てはめません。それは過去に起こったことだったので、戦争時の過去の人々の行動であり、現在の日本人もこのような状況にあるという意味ではありません。

H：結局のところ、私たちはその時代の人々ではないからです。もし私の両親や祖母、曾祖母がこれらの痛みを受けた経験がある場合、日本に対するイメージは悪くなります。しかし、私の家族はこのような状況ではありません。そして、それらの植民地の歴史的な出来事がすべて言葉になって本に書かれていても、私たちのような若い世代はそれを感じることができません。個人的にそのような痛みを経験したことがないからです。

Cは、歴史上の日本の行動が、自身の日本に対するイメージに影響を与えていないと述べ、「歴史」上の日本は、「現在」の日本と分けられるべきだとの見解を述べている。

Hは、「その時代の人ではないから」と歴史との

間に距離を置いた上で、歴史教育について「若い世代はそれを感じることができない」と、歴史教育の影響の弱さを示す見解を述べている。

以上のことから、台湾における現在の20代の対日イメージについて、歴史教育の影響が弱い理由が明らかになった。対象者は、台湾の歴史教育を受け、過去台湾の植民地時代の傷痕を十分に認知した上に、「歴史は現在と分けるべきだ」「私はその時代の人ではない」というような理由を述べ、肯定的対日イメージを形成してきたことが明らかになった。

④図2の下側の02サブグラフは「家族」「番組」「見る」「建築」「製品」「買う」「バンド」が共起する語群である。真ん中の「家族」と「番組」・「製品」との共起関係が強いことがわかる。さらに、「番組」は「見る」・「建築」との間には強い共起関係がある。Hは家族から影響を受けて、日本建築に関する番組を視聴し、日本建築に夢中になったと述べた。このことから、家庭環境が20代の台湾人の対日イメージに与える影響は、親から直接伝える行動や言葉ではなく、主に日常生活における日本のテレビ番組の視聴や日本製品の使用などの側面から、間接的に伝えられるものであると考えられる。

さらに、もう一つ家庭環境に関するサブグラフが存在する。それは右側の08サブグラフである。08サブグラフを見ると、「お爺さん」「お祖母さん」「お母さん」「お父さん」「影響」の5語の塊は「家庭環境」という影響要因の語群として見られ、「日本語」「勉強」「話す」などの「日本語を勉強する」の語群である03サブグラフとの間には弱い共起関係を持っている。このことから、インタビューでは、家庭環境が回答者の日本語学習に影響を与えているという事例もあると考えられる。祖父母の影響を受け、日本語の勉強を始めた対象者Fは、次のように述べる。

F：私の祖父母は日本の教育を受けて育ちまし

た。台湾は以前日本の植民地支配下にあったため、当時すべての子供が日本語を学ぶ必要がありました。しかし、中華民国政府が台湾に上陸し、「光復運動」という中国文化を浸透させる政策を行った後、台湾では日本語を話すことができる人は少なくなりました。しかし、私の祖父母はビジネスマンであり、ビジネスで日本人と接触していたため、日本語をずっと話します。祖父と祖母はささやくときに日本語を話します。彼らが何を話しているのか知りたいのですが、「あなたは日本語を勉強したらわかるよ」と言われました。それで私は徐々に日本語を学び始めました。

したがって、家庭環境は20代台湾人の日本のテレビ番組の視聴、日本製品の使用、あるいは日本語の勉強に影響を与えると考えられる。また、それらの行動は、彼らの日本との接触を増加させ、同時に彼らが日本を好きになる可能性を高めると考えられる。

⑤左側の06サブグラフでは、「大陸」と「中国」は強い共起関係を持っている。政治問題のために、「大陸」は台湾では「中国」の別名であり、2つの語は密接に関連している。ただし、この2つの語は、他の語とはつながりが無い。これは、調査1での「対中イメージ」と「対日イメージ」が負の相関関係にあることを考えると、対象者は、著者が中国大陸人であるというアイデンティティに対して配慮して回答した可能性がある。

⑥右上側の04サブグラフでは、「人」「大阪」「東京」の3語が強い共起関係を持っている。回答者が日本の具体的な都市に対してイメージや旅行経歴を語ったことが表れている。さらに、具体的なインタビュー内容を見ると、8人中4人（対象者A, B, D, E）が「大阪が好きだ」と言っており、2人（対象者A, B）が「大阪人はとても熱心だから大阪人が好きです」と思っている。しかし、東京が好きだと言う人は誰もいない。さらに、Aは「東京人たちはとても冷たくて嫌いだ」と述べた。これ

は30代の「哈日族」と比較すると大きな差異が存在していると考えられる。「哈日族」は日本の恋愛ドラマの影響を受け、東京を代表として都市のライフスタイルに憧れている（松下, 2008）。しかし、現在の20代の台湾人は特に東京が好きという意識を持っていないと考えられる。逆に大阪や佐賀や京都など、地元の雰囲気や伝統文化を感じられる日本の中部か西部が好きの人が高い比率を占めている（対象者A, B, D, E, F）。Aは次のように述べている。

A：私は日本へ留学し大阪に1年以上住みました。大阪の人たちはとても熱心で面白いです。大阪のおばさんは、通りで私によく話しかけておしゃべりしました。たとえば、私が重い荷物を持っている場合は、大阪の人はすぐく自発的に荷物を運ぶのを手伝ってくれます。でも東京の場合、私は東京に2回旅行したことがありますが、東京の人たちは少し他人のことに對して無関心だと感じています。たとえば、誰かに道を教えてもらいたかったのに、東京の人は私の視線を見ないようにして立ち去りました。

また、Fも日本旅行の目的地の選択について、次のように述べている。

F：家族を連れて行くなら、大都市の交通やホテルなどが便利で、お母さんは東京の方が好きなので、東京を選びます。でも、私一人で日本に行くなら、東京に行きたくないです。コロナの前に、今年は北陸地方の黒部立山と合掌村に行く予定でした。黒部立山は毎年4月から10月までしか開放しておらず、山の雪が溶けて氷の壁が見えてきます。合掌村もとても面白く、日本伝統文化を感じさせる小さな村です。

Aは、大阪人と東京人とのコミュニケーションの経験から、自分は大阪人が好きで、東京人は好きではないという見解を述べている。



F は日本への旅行経験と次の目的地の選択について話した。F は東京に行ったことがあるが、憧れやまた行きたいという気持ちはない。日本の独特な風景がある観光地や日本文化を感じられる観光地の方が更に面白くて行きたいという考えを述べている。

このことから、対象者は、30代のようなテレビドラマを通して作られた東京に憧れるのではなく、大阪人との現実のコミュニケーションや自己の旅行経験により、日本の地域に対する評価を作り出していることがわかる。これは、過去10年間における、日本への留学経験者と旅行経験を持つ台湾人の急増と関係があると考えられる。

独立行政法人日本学生支援機構の2011年から2019年までの「外国人留学生在籍状況調査結果」によれば、台湾からの留学生人数は2011年の4,571人から2019年の9,584人に9年連続増加した。そして、日本政府観光局(JNTO)の「JNTO訪日旅行データハンドブック2020」によれば、台湾の訪日旅行者数は2011年の99.4万人から2019年の489.1万人に9年連続増加した。国際連合によれば、2019年台湾の総人口は約2377万人である。つまり、2019年に台湾から日本へ旅行した人の比率は20.5%であり、5人に1人が日本を訪れている計算になる。

したがって、東京に対する憧れが弱くなっている原因は、留学や旅行など訪日経験者の増加のために、現実的な日本を体験した人が多くなったことである。このことから、東京については、対象者たちは東京の「実像」を見たために、日本恋愛ドラマにより作り出された「虚像」と実際の日本との間に存在しているギャップを感じて、東京へのイメージをダウンさせたと考えられる(李, 2006)。一方で、大阪の場合は、東京のような日本恋愛ドラマから大都市やオシャレなライフスタイルという「虚像」を作り出さなかったため、大きなギャップを感じさせず対象者自身の旅行や留学により大阪に対するイメージを作り出したと考えられる。

#### 4.3.4 8人の共起ネットワーク

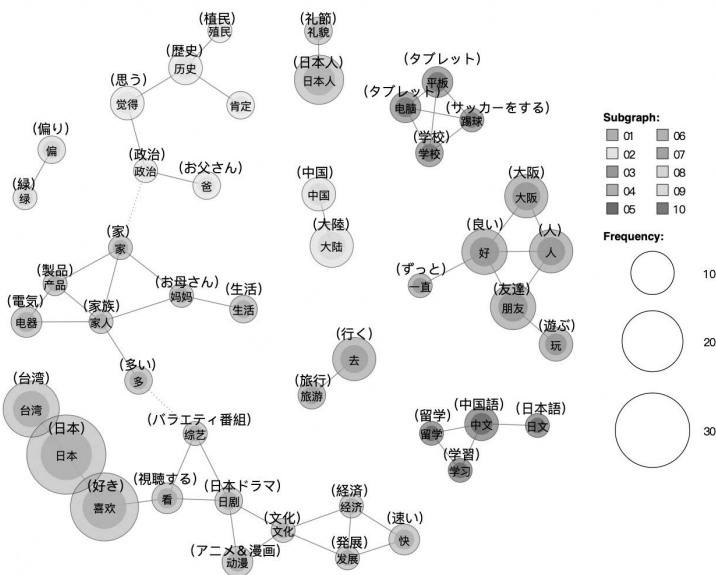
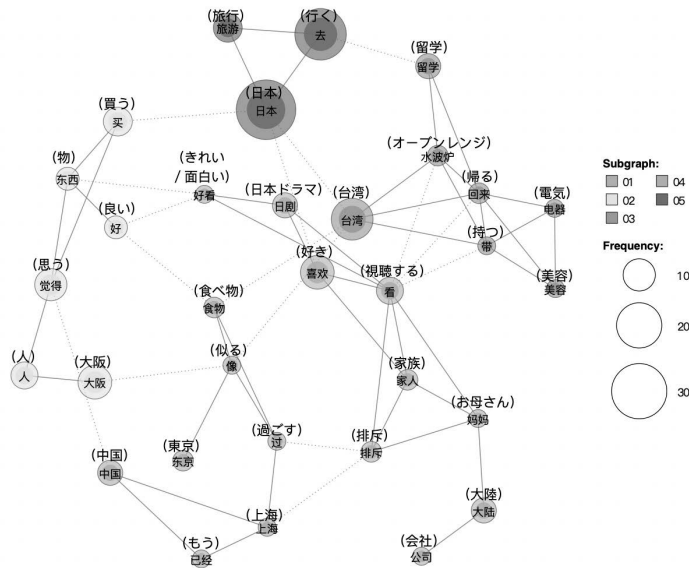
以上、対象者8人のインタビュー内容の全体的共起ネットワークに対して、分析と考察を行った。以上の分析と考察より、日本文化、歴史教育、家庭環境、訪日経験という4分野に言及したことが多かったことがわかった。次に、各対象者と全体の間に違いがあるかどうかを明らかにするため、対象者8人のインタビュー内容それぞれについて共起ネットワークを作成し、分析と考察を行う。

対象者A(図3)は、「日本・行く・旅行・台湾・好き・大阪・留学」が共起ネットワークの中心的な抽出語となっている。このことから、対象者Aは主に大阪に旅行と留学した経験により、肯定的な対日イメージを作り出したことが示されている。これは全体的共起ネットワークの結果を支持する。

対象者B(図4)は、「日本、好き、台湾」という最も出現頻度が多い語との間に強い共起関係を持っているのは「視聴する・バラエティ番組・日本ドラマ・アニメ&漫画」など日本ポップカルチャーに関する語である。そして、「日本人・友達・良い・大阪・遊ぶ」など日本人の友達に関する語も幅広く頻出している。このことから、対象者Bは主に日本のポップカルチャー文化に対する興味と大学時代接触した日本人の留学生友達により、日本に対する良いイメージを作り出したことが示されている。台湾での日本留学生との交流については、全体的共起ネットワークの結果に示されていない。つまり、日本人留学生が少ないから、大きな要因にならないが、肯定的対日イメージを形成する要因の一つと言える。

対象者C(図5)は、「子供頃・接触する・アニメ・スタイル・良い・哈日」など日本アニメに関する語群と「時期・過去・発生・植民・世代」など歴史に関する語群以外、「台湾人・日本人・行動・国家・大地震・寄付金・ワクチン」など国際的な出来事に関する語も幅広く頻出している。このことから、対象者Cの肯定的対日イメージの形成について、日本アニメに接触する経験と歴史に対する認識以外、国際的な出来事も重要な影響要因の一つと考えられる。





対象者Dの共起ネットワーク(図6)は、「好き・アニメ&漫画・作品・文化・バンド」が共起ネットワークの中心的な抽出語となっているポップカルチャーに関する語群と「日本・行く・旅行・環境・良い・風景・空」など日本の自然環境に対する褒め言葉に関する語群を示している。このこと

から、対象者 D の肯定的対日イメージの形成について、ポップカルチャーと日本の自然環境に対する憧れが 2 つ重要な影響要因として見える。これは全体的共起ネットワークの結果を支持する。

対象者E(図7)は、「日本・行く・旅行・佐賀・好き・文化・作品」が共起ネットワークの中心的

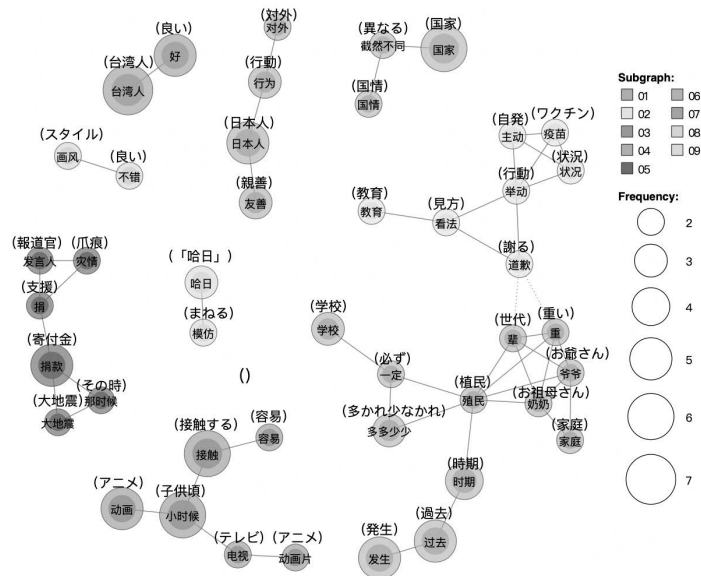


図5 対象者Cの共起ネットワーク

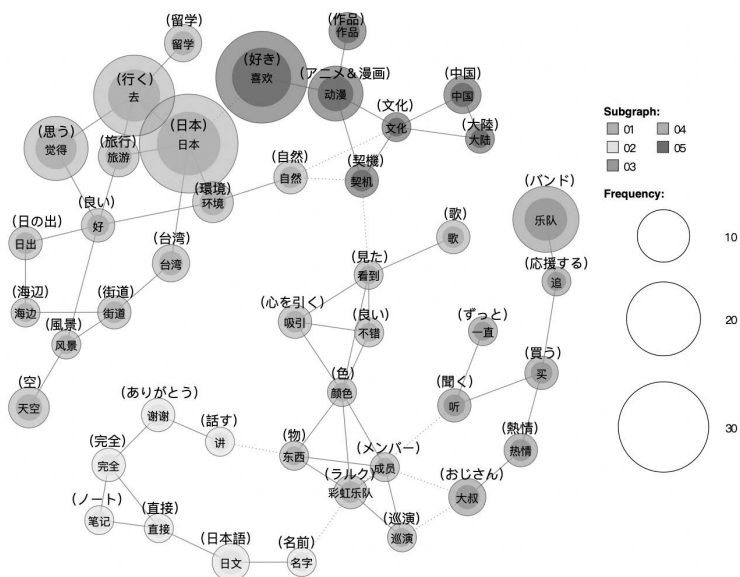


図6 対象者Dの共起ネットワーク

な抽出語となっている。このことから、対象者Eは日本の佐賀への旅行経験と日本文化に対する興味により、肯定的な対日イメージを作り出した。これは全体的共起ネットワークの結果を支持する。

対象者F(図8)は、「日本・台湾・日本語・アニメ・視聴する・行く・お爺さん・お祖母さん」

が共起ネットワークの中心的な抽出語となっている。このことから、対象者Fは日本に旅行した経験、日本アニメの視聴、および祖父母の影響を受けて日本語を勉強することにより、肯定的な対日イメージを作り出したと考えられる。

対象者G(図9)は、「日本・好き・ゲーム・ア

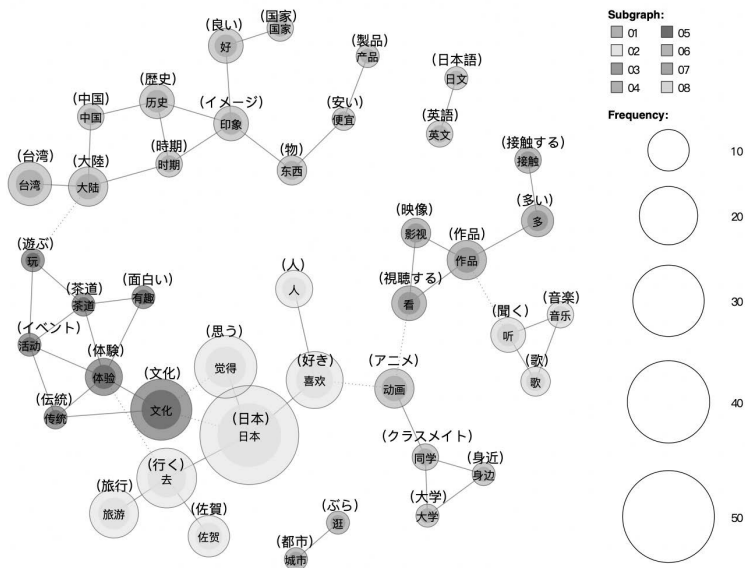


図7 対象者Eの共起ネットワーク

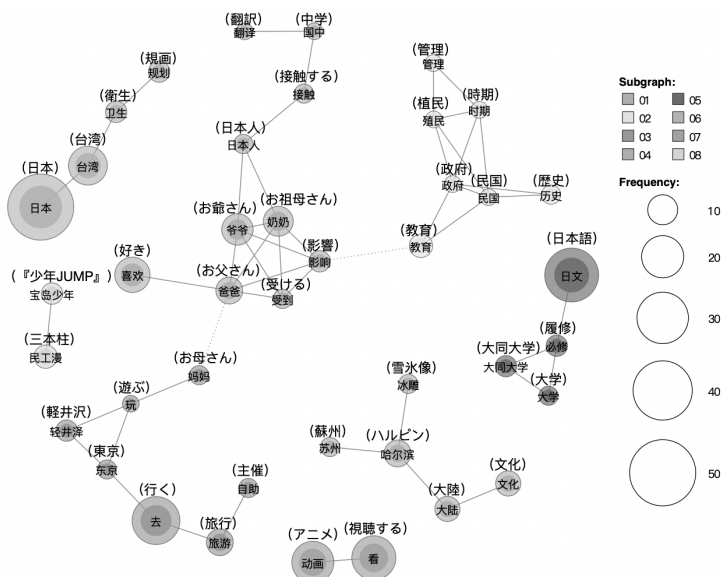


図8 対象者Fの共起ネットワーク

「アニメ＆漫画・スタイル・陶磁器・文化」が共起ネットワークの中心的抽出語となっている。このことから、対象者Gは日本のポップカルチャーと伝統文化の影響を受け、肯定的な対日イメージを作り出したと考えられる。

対象者 H (図 10) は, 「台湾・人・文化・子供

頃・アニメ・番組・歴史・国家・関係・コロナ」が共起ネットワークの中心的な抽出語となっている。このことから、対象者Hの肯定的対日イメージの形成については、日本アニメや番組に対する視聴と歴史に対する認識以外、国際的な出来事も重要な影響要因であると考えられる。

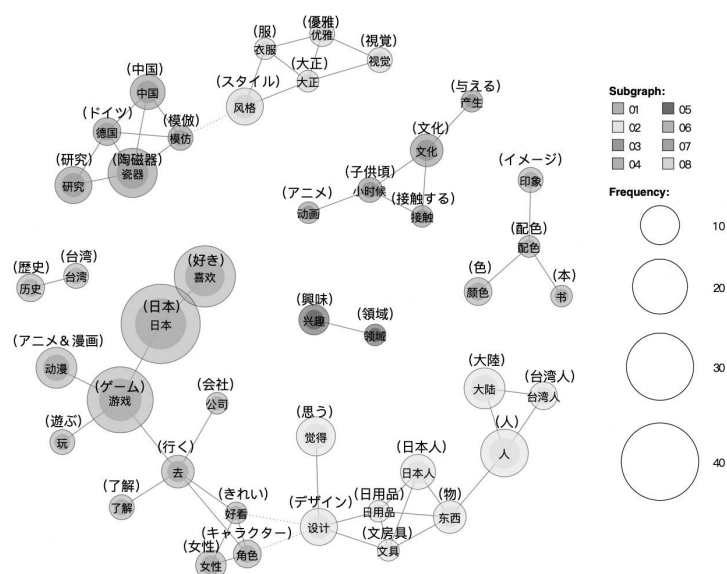


図9 対象者Gの共起ネットワーク

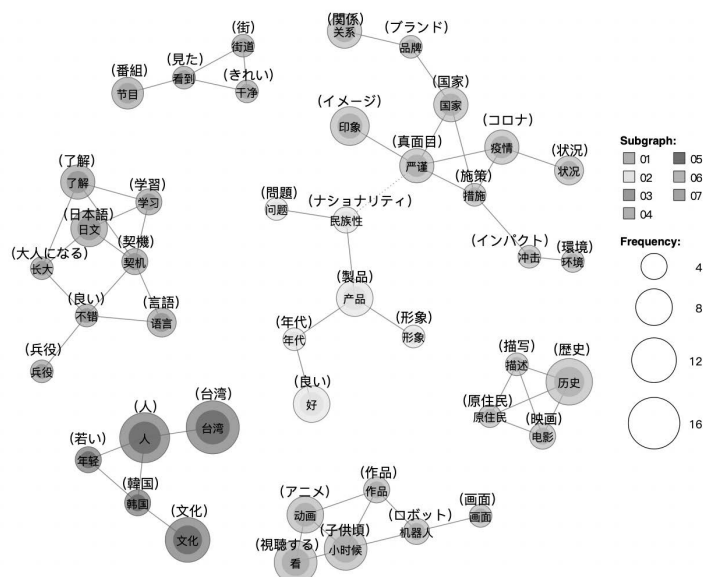


図 10 対象者 H の共起ネットワーク

以上のことから、全体的共起ネットワークの結果に違いがあるのは、対象者Bが言及した日本人の留学生友達と交流する経験、および対象者Cと対象者Hが国際的出来事に言及したことである。

## 5. 全体的考察および今後の課題

## 5.1 全体的考察

以上、本研究では、台湾の20代の肯定的対日イメージに影響を与える要因を明らかにするために、2つ研究を行った。

研究1では、台湾の20代328人を対象として、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「対中イメージ」の4要因が、肯定的対日イメージの形成と関連しているのかについて量的分析を行った。相関関係を検討したところ、「家庭環境」「日本文化」の2要因と「対日イメージ」の間には、やや強い相関関係があり、「歴史教育」と「対日イメージ」の間にはやや弱い相関関係があり、「対中イメージ」と「対日イメージ」の間には弱い相関関係があることがわかった。

重回帰分析を利用して因果関係を検討したところ、「家庭環境」「日本文化」という2つ要因が「対日イメージ」に対して有意な正の影響を及ぼし、「対中イメージ」が「対日イメージ」に対して有意な負の影響を及ぼし、「歴史教育」が「対日イメージ」に対して影響を及ぼさないことがわかった。

以上のことから、「家庭環境」「日本文化」「歴史教育」「対中イメージ」の4要因が対象者の肯定的対日イメージの形成と相関関係があること、「家庭環境」「日本文化」「対中イメージ」の3要因が対象者の肯定的対日イメージの形成と因果関係があることが明らかになった。

研究2では、肯定的対日イメージを抱えている台湾の20代8人を対象として、インタビュー調査を行った。そのデータをもとに、対象者の肯定的対日イメージに最も影響を与える要因、および上述の4要因が対象者の肯定的対日イメージの形成にどのようにかかわっているのかについて質的分析を行った。

その結果、本研究2の全体的共起ネットワークの結果より、以下の4点が示唆された。

第1に、20代台湾人の肯定的対日イメージの形成に対して、日本のアニメやゲームなどのポップカルチャーが大きな影響を及ぼした。特に、幼少期からの日本アニメを視聴する経験は、対象者の肯定的対日イメージの形成に対する重要な契機であることが示されている。つまり、幼少期から日本のアニメを視聴することは、対象者が成長したときの留学などの行動や美意識などに影響を与え、後に日本文化を好きになるための基礎を築くこと

になると考えられる。

第2に、20代台湾人の肯定的対日イメージの形成に対して、歴史教育の影響は弱いと考えられる。対象者は、過去台湾の植民地時代の傷痕を十分に認知した上に、現在の日本に目を向け自身の歴史との距離を強調するなどの見解を持ち、肯定的対日イメージを形成してきたことが明らかになった。このことから、台湾の若者が「歴史への関心の希薄さ」という守谷ら(2011)の論と同じような見解が示される。これは台湾自身の激動の歴史と頻繁に差し替えられた歴史教育の姿勢の影響を受けた可能性が高いからである。1895年の日清戦争を始め100年間、台湾は少なくとも3段階の教育交代を経験した。それは、①日本植民地時代の「日本化」教育、②国民党統治時代の「中国化」教育、③民主化多政党統治下の「本土化」教育である。このことから、台湾の歴史教育の内容や教育姿勢自体がこれまでに繰り返し転換されて現在に至っており、それが台湾の若者が歴史教育の影響を受けにくいことの背景にあると考えられる。

第3に、20代台湾人の肯定的対日イメージの形成における家庭環境の影響については、対象者は家族の日本に関連する発言から影響を受けたのではなく、日本のテレビ番組の視聴、日本製品の使用、日本語の使用など、家族の日常行動の影響を受け、自己の日本に対する肯定的なイメージを形成していることが明らかとなった。

第4に、20代台湾人の肯定的対日イメージの形成における訪日経験の影響については、日本の恋愛ドラマの影響を受けて東京が一般的に好きな30代台湾人(哈日ブーム世代)と異なり、20代の若者は、自身の訪日経験に基づき、自分が好きな日本の町を判断し、自分独自の対日イメージを作り出していると考えられる。

以上のことから、本研究では、台湾における20代対象者の肯定的対日イメージの形成について、日本ポップカルチャーとの接触、家族の日常行動、個人の訪日経験が大きな影響要因であるといえる。ただ、本研究は対象者8名の小規模の研究である。そのため、この研究結果を過度に一般化しようと



するものではない。だが、本研究から得られたことは、今後、台湾における日本イメージ形成の解明の上でも、また異文化間における相互理解の上でも有効であると考ええる。

## 5.2 今後の課題

まず、研究2では、幼少期から日本アニメを視聴する経験は、対象者の肯定的対日イメージの形成において重要な契機であることが示されている。それは90年代台湾メディア規制の開放と日本アニメの黄金時代の影響と見られる。インタビューでは、「最近好きなアニメはない」「現在の作品より以前の作品が優秀」という発言があった。AとBは現在台湾における外来文化の流行について次のように述べている。

A：最近の台湾では、「哈日族」より「哈韓族」の方が多く、韓国文化の勢いが強いと感じている。

B：若い頃は日本のドラマが好きだったが、最近中国のドラマに夢中だ。

近年、東アジアでのさまざまな文化分野における、日本文化の影響力は徐々に低下しており、あるいは支配的な地位を失い、韓国や中国を中心としたアジア諸国の文化的影响力は徐々に強まっていることがわかる。それで、10年か20年後の台湾人は、もはや日本のアニメを見て育った台湾人ではなくなる可能性があり、それでも親日的な態度を維持するのだろうか。その点で、研究を続ける価値があると考えられる。

次に、「対中イメージ」と台湾20代の肯定的対日イメージの形成について、研究1では「対中イメージ」が「対日イメージ」に対して有意な負の影響を及ぼすと示していることがわかったが、研究2では「対中イメージ」は、肯定的対日イメージの形成とどのような関わりを持っているのかが不明であった。これは、対象者が、本研究の調査担当者が中国大陸人であることに配慮して回答した可能性がある。これらについては、今後の課題

として検討していくことにしたい。

## 参考文献

### 【日本語】

- 王育徳 (1988) 「台湾と日本のあいだ」『台湾青年』355, 23-34
- 纓坂英子・内藤伊都子・張恵蘭 (2010) 「台湾における大学生の日本語学習動機と対日イメージ」『2010年世界日語教育大会論文集：予稿集』, 1120-1-1120-9
- 加賀美常美代・黄美蘭・小松翠 (2016) 「台湾人の年代ごとの日本イメージと規定要因—国民意識と日本関連情報との接触頻度に着目して—」『異文化間教育』44, 98-115
- 洪郁如 (2013) 「理解と和解の間—「親日台湾」と歴史記憶」『言語文化』50, 17-29
- 張原銘 (2002) 「台湾の歴史教科書における日本認識の一考察—『歴史』と『認識台湾』を中心に」『立命館産業社会論集』38(3), 157-173
- 張瑋容 (2018) 「現代台湾社会における親日感情の構築と日本の記号化—哈日族と哈日現象の分析を通じて—」お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士論文
- 張瑋容 (2019) 「＜日本＞をめぐるファンタジー：ドラマ「おっさんずラブ」の台湾人ファンの言説分析から」『年報カルチュラル・スタディーズ』7, 73-94
- 日本政府観光局編著 (2020)：『JNTO 訪日旅行データハンドブック 2020年』, 日本政府観光局
- 福島哲夫編著 (2016) 『臨床現場で役立つ質的研究法—臨床心理学の卒論・修論から投稿論文まで—』, 新曜社
- 松下慶太 (2008) 「台湾における日本メディア文化の普及と「日本イメージ」の形成」『目白大学人文学研究』4, 121-134
- 松野良一 (2016) 「「台湾二二八事件と中央大学卒業生」プロジェクトと受難者家族の証言概要」『総合政策研究』24, 47-70
- 守谷智美・加賀美常美代・楊孟勲 (2011) 「台湾における日本イメージ形成—家庭環境、大衆文化及び歴史教育を焦点として」『お茶の水女子大学人文学研究』7, 73-85
- 李衣雲 (2006) 「台湾における日本恋愛ドラマと日本イメージの関係について」『マス・コミュニケーション研究』69, 108-125
- 李衣雲 (2017) 『台湾における「日本」イメージの変化, 1945-2003「哈日現象」の展開について』, 三元社

### 【中国語】

- 哈日杏子 (1996) 『早安日本』, 尖端出版
- 哈日杏子 (1998) 『我得了哈日症』, 時報出版

楊開煌・劉祥得（2011）「社會接觸及政治態度影響台灣民眾對大陸印象，認知，政策評估之分析」『遠景基金會季刊』12(3)，45-94

参考 URL

「台湾における対日世論調査」（公益財団法人日本台湾交流協会）

<https://www.koryu.or.jp/business/poll/>（2022年9月30日閲覧）

「外国人留学生在籍状況調査」（独立行政法人日本学生支援機構）

<https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/index.html>（2022年9月30日閲覧）